



# 走れ 未来へ 貴志川線

新生貴志川線への提言

平成 17 年 7 月 27 日

貴志川線の未来を“つくる”会

## はじめに

大正5年から幾多の変遷を経ながら、地域住民の交通手段として、今日においても年間200万人弱が利用し大きな役割を果たしている「南海電鉄貴志川線」について、南海電鉄は赤字を理由として平成15年1月廃止の検討を行っていることを表明し、平成16年10月正式に国土交通省に届出をおこないました。

私たち「貴志川線の未来を“つくる”会」(会員数6300名:平成17年7月23日現在)は、貴志川線を鉄道として存続することを目的として平成16年9月に結成し、「乗って残そう貴志川線」を合言葉に、関係機関への要請、要望行動、沿線住民への啓発行動、利用者増へのイベント開催など、存続の実現にむけた積極的な取り組みをおこなってまいりました。この結果、各団体、議会、行政、など地域を挙げた「貴志川線を残そう」の声は、大きなうねりとなり、本年(平成17年)2月、いわゆる上下分離方式により、行政の財政支援が決定し、3月に公募が行われ後継事業者に岡山電気軌道株式会社が決定しました。この結果、廃線という事態は免れましたが、未永く存続させていくためには利用者の確保が重要な要素となることは、論をまちません。

少子高齢化と人口の減少、モータリゼーションの進展など、鉄道をとりまく環境は非常に厳しく、特に地方鉄道については顕著なものがあります。

「貴志川線の未来をつくる会」は、21世紀は、環境問題の高まりなどを背景に、鉄道への期待と役割は高まってきており、鉄道の特性をいかした未来に引き続く交通づくりを思考していくべきだと考えております。

しかし、現実には鉄道の利用は減少しており、従来の延長線上の取り組みのままでは、むしろ衰退する傾向は今日の実態で明らかであります。私たちはこうした危機感の上に立って、未来に向けて住民、利用者を選択され続ける貴志川線づくりをめざして、利用促進とマイルール運動を進めるために、会としての「提言」をまとめる方針を決定し、本年2月から「政策プロジェクトチーム」を設置して討議を進めるとともに、併せて本年5月には会員の声を把握し、「提言」を補強するために「貴志川線の利用促進に関するアンケート」を実施し、今回、一走れ未来へ貴志川線―「新生貴志川線への提言」としてとりまとめを行ったものであります。

この「提言」は、その多くが沿線に住まいし、生活の足として利用する一般住民で組織する、「貴志川線の未来をつくる会」らしく、利用実態に即した、未来志向の積極的な提言内容としたつもりであります。



「提言」では、第一に、「鉄道は利用してこそ価値を生むものである」との考え方から、

- ① 利用者増にむけた体制づくり
- ② 行政や、経済団体に求めていく公共交通利用の環境づくり
- ③ 貴志川線の魅力アップによる利用しやすい鉄道づくり

の課題を提起しました。

さらに第二の大きな課題として、経営基盤の確立にむけて、運輸収入を補完するものとして、事業者における積極的な付帯事業の展開を提起させていただきました。

「提言」は、実現してこそ価値を生むものです。

私たち「貴志川線の未来をつくる会」は、この提言に基づく政策を広く社会に問題提起を行い、事業者はもとより、行政や経済界など各界のご理解とご協力を得ながら、貴志川線の未来永劫の存続を願う住民団体としての自覚をもって、その実現におけた運動を積極的に展開していきたいと考えております。

## 第1章 現状と課題

南海電鉄貴志川線は、大正5年に開業した山東軽便鉄道にルーツを持ち、爾来90年余り運行されている鉄道線です。和歌山県の県都である和歌山市中心部から東に向かって路線は敷設されており、和歌山市東部の農村部及び貴志川町への重要な交通手段となっています。鉄道輸送による人員は昭和49年の361万人をピークとして減少を続け、平成15年度は200万人を割る状況となっています。これは、各家庭への自家用車の普及、また路線と平行する県道9号線の整備・拡張が大きく影響しています。

しかしながら、拡張整備された県道も朝夕のラッシュ時には慢性的な渋滞に陥っています。同時に、通勤・通学時間帯の車内は十分な利用者がおり、鉄道の廃線は周辺道路の混雑を一層助長することは容易に予想されます。また、沿線には学校が多く、これらに通学する学生・生徒には電車通学する者も多くあります。これらの学生・生徒達の鉄道廃線後の通学手段は現状のままでは皆無であり、父兄による自動車での送迎若しくは代替交通手段としてのバス輸送しかありません。

列車の利用状況については、朝は和歌山方面、夕方は貴志方面への利用者が圧倒的に多い、典型的な片道利用路線となっています。また和歌山～貴志の全線利用者の割合が多いこと、通勤・通学定期券での利用者が多い(定期利用者は全体の2/3)ことが特徴となっています。

和歌山駅ではJR各線と連絡しますが、接続状況は芳しくないといえます。特に大阪方面への阪和線利用者が乗り換え比率として高くなっていますが、ひどい時には貴志川線の到着と同時刻に阪和線が出発するというケースも見られます。

## 第2章 活性化に向けた基本的な考え方

地域の重要交通手段である鉄道路線として、鉄道会社単独の経営努力に期待するのではなく、沿線地域と連携をとって活性化することが、利用者の愛着増加にも繋がり良いように思われます。また鉄道部門のみでの黒字は非常に困難が予想され、関連事業やその他の部門での増収も検討しなくてはならないと思われます。

ここ数年、貴志川線の利用者は減少傾向にあります。自家用車の普及と周辺道路の整備のみがその理由ではないと考えます。鉄道の利便性が優位に立てれば乗客は増加すると考えます。特に貴志川線は前述の通り定期券利用者が比較的多く、固定収入が見込まれるという利点を持っています。乗客の立場に立ったサービスが必要でしょう。

また、路線に愛着を持って貰うことも必要です。駅を拠点とした街づくりなどによる駅周辺の活性化は利用促進に大きな一助となると考えられます。同時に遠方からの利用者(観光など)を獲得することも必要です。

沿線地域と一体化した利用促進策が必要と考えられます。具体的には鉄道に対する愛着を持ってもらうこと、そしてその利便性を感じてもらうことにあるように思います。駅を拠点としたまちづくり、駅周辺の活性化などは早急に取り組む課題と考えます。駅前の駐輪場・駐車場の整備も必要になるかもしれません。和歌山駅での乗り換えの便の改良や、割引率の優遇される回数券の販売も効果的だと考えます。

また貴志川線沿線には、歴史的にも自然環境的にも魅力的な空間が多く存在します。沿線住民や和歌山市・和歌山県といった範囲でなく、大阪から近畿エリアといった広域に訴え出てもその魅力を訴えることができるように考えます。遠方からの観光利用者が増加することによって、記念乗車券や鉄道グッズによる副収入も得ることができると考えます。

## 第3章 具体的活性化策

### 1. 体制づくりについて

#### (1) 運営協議会(仮称)の設置

(目的) 新事業体における運営については、その経営基盤の確立が強く求められています。そこで、新事業体に対する提言と助言を行うことを目的に設置する。

(構成) 行政、利用者代表、学識経験者、事業者

(運営) 4半期に1回程度開催し、経営状況、利用者の動向等、事業者からの情報開示を受けて、その対策等について討議を行い、事業者に対する提言、助言を行う。



(2) 利用促進協議会(仮称)の設置

(目的) 貴志川線の利用促進を推進する

(構成) 行政、利用者団体、観光協会、沿線事業者、自治会、学校・大学、生徒会、商店街、神社、等

(事業) 貴志川線の利用促進のための施策の具体的な実践と、利用促進のための提案を行う。

## 2. 県、沿線自治体、企業、団体による環境整備

(1) 職員、社員の利用拡大の徹底 ⇒ 通勤、出張

(2) 児童、生徒、団体の利用促進 ⇒ 遠足、野外活動の利用

(四季の郷、交通公園、竹の里、きしべの里、平池野鳥公園等)

(3) 駅周辺への公共施設、開発行為の誘致

(4) パークアンドライドの推進 ⇒ 駅周辺の遊休地の活用

(5) 利用促進にむけた宣伝、啓発活動の推進

(6) 駅からのアクセス整備 ⇒ 駅へのバス乗り入れ

(7) 行政広報等を活用して、地域をあげた貴志川線利用促進徹底

(8) ノーマイカーデーの積極的な展開

(行政、企業、交通事業者による推進機関を設置し、公共輸送網の整備を行い、毎月最低1回実施する)

(9) 沿線の魅力アップを図る

① 四季の郷公園での魅力的なイベントの実施とシャトルバス運行

(例、チュウリップ祭り、コスモス祭り、等)

② 沿線休耕地への花園の展開

## 3. 貴志川線の魅力アップを図る

(1) 利便性の向上、列車ダイヤの改善

① JRとの接続を重視したダイヤ編成を行う

② スピードアップ(ダイヤ作成の工夫、行き違い駅での待ち時間の短縮)

③ 行き違い駅設備の復活(大池遊園若しくは甘露寺)

④ 利用者のニーズに応えタイムリーなダイヤ改正の実施

⑤ 新駅の設置 ⇒ 「津秦」「永山」

(2) 全駅に簡易型自動券売機(自動改札機対応)の設置とJスルーカード加入

(3) 和歌山バスとタイアップによる割引共通乗車券の発行

(4) 案内ボード、標識、看板の整備(駅進入路、周辺観光地、施設)



- (5) 社員の意識改革によるサービスの向上
- (6) 子供に喜ばれるイベント開催（クリスマス、子供の日、七夕）  
「着ぐるみ」、プレゼントなど

#### 4. 親しみやすい、利用しやすい駅づくり

- (1) 各駅に自治体・自治会、学校広報板の設置
- (2) バリアフリー化の促進(高齢者、身障者に優しい鉄道づくり)
- (3) 地域住民により、各駅に「〇〇駅友の会(仮称)」を結成し、駅周辺の美化、清掃、花壇の設置などボランティア活動を通じ、貴志川線を愛し、利用する雰囲気、環境を醸成する。
- (4) 各駅のシンボルカラー、花を決定し、塗装、植樹を行う。(誤下車の防止)

#### 5. 情報発信の取り組み強化

- (1) ホームページの開設
- (2) 沿線イベントガイドの発行、配布
- (3) 和歌山駅西口、東口コンコースに「案内ボード」の設置
- (4) 各関係機関、施設、団体、マスコミ等に対する積極的な情報提供

#### 6. 増収対策の展開について

- (1) 多様な定期券の新設
  - ① 持参人式定期券（記名人のみでなく持参した人が利用できる、家族、法人、団体）
  - ② 環境定期券（注1）
- (2) 多様な乗車券の発売
  - ① 初詣乗り放題きっぷ
  - ② アイデアを活かした各種記念乗車券の発行
    - (ア) 沿線特産物を活用した乗車券
    - (イ) 社合格祈願付き乗車券
    - (ウ) 全駅入場券(シート付)、花シリーズの発行等
  - ③ 高齢者(65歳以上)向け1ヶ月乗り放題きっぷ(1500円程度)
  - ④ 家族割引きっぷ
  - ⑤ 夏休み一日フリー乗車券
  - ⑥ フォーヤングキップ(中高生限定、4枚回数券で運賃の半額)
- (3) イベント列車の運転  
ビール列車、カラオケ列車、紙芝居列車、人形芝居列車、バンド列車



- (4) タイアップ商品の設定(屋形船、いちご狩り、ほたる見物等)
- (5) 自転車の車内持ち込み
- (6) 車内ギャラリー  
(絵画、写真コンテストを実施し、車内、駅への展示を行う)
- (7) 沿線ハイキングコースの宣伝と誘客  
(JRのふれあいハイクと連携して JR 沿線からの誘致)
- (8) 鉄道ファンを対象とした行事の開催とグッズ販売  
(検車区見学、関連グッズの販売・・・キーホルダー、硬券入場券、Tシャツ、チョコQ、ネクタイ等)
- (9) 百貨店とのタイアップ (〇〇円以上の買物に初乗り運賃乗車券を進呈)
- (10) クリスマスイルミネーションを各駅友の会で実施し、コンテスト投票券を付けた「見物きっぷ」を販売する
- (11) 貴志川線寄席の開催、地元落語家の協力を得て沿線で開催、「鑑賞きっぷ」を販売する
- (12) 沿線風物詩の「語り部」による行事の開催

## 7. 事業の積極的な展開による収入確保

- (1) 広告収入の確保(駅、沿線)
  - ① 小口広告・・・各駅に広告スペース設置、1マス1万円/月を200口
  - ② 大口広告・・・県内有力企業に協力要請 20万/月を20口
  - ③ 駅のネーミングライツ
  - ④ 車体ラッピング 年間契約 12両
- (2) オリジナルグッズの製作、販売
- (3) 駅遊休地を活用した店舗貸付(岡崎前、吉礼)
- (4) 飲料水等自動販売機の設置拡大
- (5) 旅行業の展開



## 8. 住民、市民参加によるみんなの鉄道づくり

### (1) 「サポーター(仮称)」制度

和歌山県民を中心に、広く全国に呼びかけて、貴志川線に愛着を持ち、地域の生活に根ざした鉄道を守り、育てていこうというひとびとに呼びかけて結成する。

会員は、有料とし年間会費をいただき、沿線イベント案内、沿線記念植樹、鉄道施設見学等、特典を用意して利用客と収入の増加を図る。

具体的には、

- ① レールサポーター ホームから見える枕木に氏名プレート取り付け
- ② トレインサポーター 車両に氏名プレート取り付け  
いずれも年会費（1年または3年）の有料とする。
- ③ 会員バッチの発行

### (2) 「貴志川線まつり」の開催

年1回、沿線住民、利用者、生徒会、観光協会、行政等、と地方鉄道の育成に関心を持つ人々に広く呼びかけ、貴志川線を守り、発展させていく決意を新たにするため、「電車で集まれ!貴志川線まつり(仮称)」を、楽しいイベントとして盛大に開催する

### (3) 「基金」、「コミュニティファンド」について、さらに検討を深めていく。

(注1)「環境定期」とは

マイカー利用から電車利用への転換を図るため、定期券所有者の同伴家族に対して、土日、祝日、年末年始の電車利用について、1乗車大人100円、小人50円で利用できる制度。(愛媛県伊予鉄道などで実施)

**だれでも いつでも どこまでも  
わたしたちの貴志川線 だから  
走りつづけてほしい**